

令和4年1月31日 第527号 北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長 髙沢 ゆみか

まねから学ぶ

先日、年長さくら組の子どもたちは、12月に行った動物園への遠足の経験を生かし、『さくら 動物遊園地』という動物をモチーフにした楽しい遊園地を自分たちで作り上げて遊びました。昨年度、年少組だったときに年長組に招待されて楽しかった『さくらんど』を思い出し、どのようなことをしたいか、何があったら楽しいかなど、学級で相談し、グループに分かれて各コーナーを作っていきました。

さくら組が楽しそうなものを作っているのを以前から知っていた年少ちゅうりっぷ組の子どもたちは、遊園地ができ上がり招待されると大喜び。期待でワクワクしながらその日を待ちました。取り組み期間中に感染症が急速に拡大し、方法を一部変更して対策を徹底しながら、ちゅうりっぷ組がさくら組の遊園地を楽しみました。最初はやや緊張気味のちゅうりっぷ組に、さくら組の子どもたちは、丁寧に案内をしたり乗り物を動かしたりして関わります。憧れの思いで目を輝かせながら一つ一つのコーナーを回るちゅうりっぷ組と、役割を分担し、自分の役割を丁寧に誇らしげに果たそうとするさくら組、どちらにとっても、互いがいることで経験できる学びがありました。

遊園地が終わった後、しばらくしてちゅうりっぷ組の保育室をのぞくと、子どもたちが、空き箱で自分なりに作ったかわいらしい動物たちに餌をあげたり、首に付けた紐で散歩をさせたりしています。 早速、さくら組の遊園地の"ふれあいひろば"を再現して遊んでいたのです。

「学ぶ」の語源は「真似ぶ(まねぶ)」という説がありますが、ちゅうりっぷ組の子どもたちは、憧れのさくら組がしていることをまねて自分の遊びに取り入れることで、経験の幅を広げています。さくら組の遊園地作りも、昨年度の年長組の姿をモデルとし、「あのようになりたい」「自分たちもやってみたい」という思いが、取り組みのきっかけになりました。憧れの対象や良いと思うものに近付こうとする気持ちは、学びの動機や支えとなります。

さくら組保護者の皆様には、今回の様子を参観していただく予定でしたが、急遽オンラインでのライブ配信に変更させていただきました。配信するにあたっては、区内小中学校のコロナ禍での授業公開の工夫も参考にさせていただきました。子どもたちだけでなく、園も大人も「真似ぶ」です。参観を楽しみにしてくださっていた保護者の皆様に少しでも子どもたちの様子をという思いと、皆様の温かなご理解、ご協力に後押ししていただき、新たな方法に挑戦することができました。これは園としての大きな収穫でした。今回の学びを今後に生かすとともに、さらに学び続けながら、依然続く厳しい状況を乗り越えていきたいと思います。

今月の指導のねらい

<ちゅうりっぷ組>

- 学級の友達と一緒に劇遊びに取り組み、その中で伸び伸びと自分を表すことを楽しむ。
- ・ 友達との遊びの中で、やり取りをしながら関わる楽しさを感じ、相手の思いに気持ちを向けていく。

くさくら組>

- 自分なりの目的に向かって工夫したり、最後まで取り組んだりして、達成感や満足感を味わう。
- ・ 友達と関わる中で、互いの思いや考えを受け入れ合い、友達とのつながりを深めていく。